

コロナ禍における昭和生まれの医師の憂鬱

戦後 76 年が経過し、数年前まで日本は GDP の比較で世界第 2 の経済大国に成長していた。私は昭和の人間であり、日本が、高度成長をしていくなかで育ち、学校に通い太平洋戦争で負けたことも知ってはいたが、日々の生活の中で、日本はアメリカ合衆国に負けない、追いつき追い越していける国であることを確信していた。しかし、今回の COVID-19（新型コロナウイルス感染症）のワクチン接種に際しては、自国でワクチンを作ることができず、日本国民すべてにワクチン接種が行き渡るのが秋になるという報道がされ、驚愕と落胆が、日本という国に対し抱いていた絶対の自信に満ちあふれた精神を揺るがす。日本が戦後ガムシャラに頑張ることで、必ず合衆国と肩を並べる状態になっていると確信し続けていた私には非常なショックであった。

さて食事の欧米化が叫ばれて久しい。とにかくおいしい食べ物が多くなっており、摂取カロリー数も昭和の時代とは比較にならぬ位増えている。昔は王様の病気と言われた痛風は、今や 20 代でも尿酸値が高く発作を起こして受診される。美味しいものが目の前にあり、それを我慢して食べないようにする時代なのである。昭和は美味しいものがなくて食べられない時代であったが、平成・令和は美味しいものがあふれていて、食べられない、食べてはいけない時代になっている。これらのことは商売をする経営者はよく検討し分かっていることで、カロリーを如何に低くして、しかも美味しいものを販売出来るかに企業存亡がかかっているといっても過言ではない。

昔は近郊には自分の足で歩いた。しかし今は、歩いて数分の所も車である。私も車に乗り始めた 20 代前半、これに乗り続けたら、下肢の力が必ず落ちると警戒していたのに、今はすぐ車に乗ってガソリンを消費してしまう。その利便性に負けている。私を含め皆様、温暖化対策が叫ばれる昨今、自分の体を目一杯使いましょう。我々の体は大変精密に立派に出来ているのです。しかしこの精密機械もいずれは灰となって大地に帰って行く運命にあります。それまでメンテナンスをしっかりと、壊れかけたところを修理しながら目一杯使って、最後まで良い状態で、使い切りましょう。せつかく生まれてきたのですから。春爛漫の緑あふれる野山を歩きながら、COVID-19 ウイルスに負けないように頑張りましょう。



レンゲツツジ：北海道大学理学部前庭

作成：宇都宮市医師会（令和 3 年 5 月）